

みんなの願いや地域のいまを考え、行動する。 それは、あすのあなたと地域が変わることにつながります。

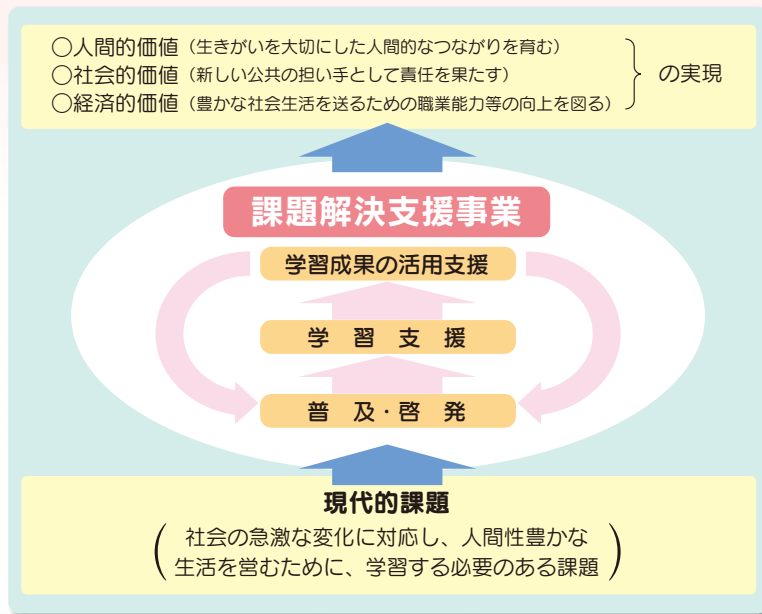


①高齢者のキャリアを生かした職場づくり

平成25年度
課題解決支援事業
普及資料 No.4



②大人の溜まり場『フォーク喫茶』



③地域住民による消費者被害をテーマにした寸劇



講座受講者のディスカッションの様子

課題解決支援事業

平成25年度実施概要

I ICT活用編（ICT活用でつながる人と人 これからの地域づくり講座）

6月15日(土)・22日(土) 受講者数59名

趣旨 携帯電話やスマートフォン、タブレット端末等が普及している現在、それらの機器を地域づくりに活用した取組が全国で行われている。そこで、ICTを活用した地域づくりについての現状や課題を知り、地域ニーズへの対応や地域課題の解決支援に向けて求められる基本的な視点や具体的な取組について学ぶ。

【講義】「はじめよう ICT活用による地域づくり」 東海大学文学部広報メディア学科 教授 河井 孝仁 氏

受講者の感想 行動促進を導く様々なパラダイムと、それを支援する手立てとしてのICTの可能性について、見識を深めることができた(20代男性)。まちづくりについて興味深い話を聞くことができた(30代男性)。ICT活用の可能性について理解することができた(40代男性)。人間関係を重視した地域づくりについて理解できた(40代男性)。これまでフェイスブックやツイッターをどう使えばよいのか、その価値を知らずにいたが、今後は「聴く道具」として使っていきたい。(40代男性)

【事例研究】「事例から学ぶICT活用による地域づくり」

コーディネーター：群馬大学社会情報学部 准教授 岩井 淳 氏

〈事例発表1〉「情報化を通してひとづくり・まちづくりのお手伝い」

NPO法人桐生地域情報ネットワーク(桐生市) 理事長 塩崎 泰雄 氏

〈事例発表2〉「コミュニティネットワークの構築と地域の活性化」

NPO法人ユニコムかつしか(東京都葛飾区) 代表 大島 進 氏

受講者の感想 組織運営上のヒント(マネジメントの方策)を得ることができた(40代男性)。地域づくりの核になる方の努力があって、大きな成果をあげている。金銭的コストをかけない方法はあっても、人的コストや心理的コストがかかることが分かった(40代男性)。ツイッター・SNSなどへの書き込みは、仲間内だけでなく、「公共放送」で流したものと同じという認識が必要であることが分かった(70代男性)。地域づくりの核となる人材を育てることが行政の役割の一つだと改めて思った。今後このようなよい講座を企画してくれることを期待したい(40代男性)。



河井孝仁氏



岩井 淳氏



塩崎泰雄氏



大島 進氏

II コミュニティ・ビジネス編（あなたの想いをかたちにしてみませんか！）

6月29日(土)・7月6日(土) 受講者数50名

趣旨 近年、全国的な広がりを見せている「コミュニティ・ビジネス」の手法を用いて、地域ニーズへの対応や地域課題の解決に向けて求められる基本的な視点や具体的な取組について学ぶ。

【講義】「コミュニティ・ビジネスとは何か」 コミュニティビジネス総合研究所 代表取締役所長 細内 信孝 氏

受講者の感想 これまで自分が漠然と考えていたイメージが、コミュニティ・ビジネスという考え方と理論と実践を交えたお話で明確になってきた(40代男性)。退職後の地域デビューの大切さが自立という面からよく理解できた(60代男性)。自分が仕事や趣味を通してやりたいと思っていたことがこのコミュニティ・ビジネスだと分かった(30代男性)。地域に関わる仕事をしている者にとって、大変興味深い内容であった(40代男性)。

【シンポジウム】「コミュニティ・ビジネスによる新たな地域づくり」

◆シンポジウムの流れ◆

- ①自己紹介並びに事業内容・活動紹介
- ②事業の「経済性の確保」について
- ③事業を通じた「人間的な繋がり」について
- ④意見交換・質疑応答

〈シンポジスト〉 シゴトラボ合同会社(さいたま市) 代表 桑原 静 氏

NPO法人よろずや余之助(太田市) 会長 桑原 三郎 氏

NPO法人ハートフル(高崎市) 代表 櫻井 宏子 氏

〈コーディネーター〉 群馬県生涯学習センター 社会教育主事 茂木 良文 氏

受講者の感想 講座の企画がよかった。また、シンポジストの説明が平易で分かりやすく、自分の問題意識、疑問点に合致した(70代男性)。多様な実践例が生の声で聞けたのがよかった。ディスカッションの時間としてもう少し時間の確保を(60代男性)。地域に関わる仕事をしている者にとって、大変興味深い内容であった(40代男性)。コミュニティ・ビジネスの実践者からいろいろな実態の報告があり、かなり具体的であった。コミュニティ・ビジネスの有用性が少し理解できた(70代男性)。



細内信孝氏



桑原 静氏



桑原三郎氏



櫻井宏子氏

Ⅲ 消費者教育編（めざせ！安心安全な地域づくり）

11月30(土)・12月7日(土) 受講者50名

趣旨 消費者教育に視点をあてた安心安全な地域づくりについての現状や課題を知り、地域ニーズへの対応や地域課題の解決・支援に向けての基本的な知識や具体的な取り組みについて学ぶ。

【講義】「新・消費者教育のすすめ」～消費者市民社会の担い手として～

横浜国立大学 教育人間科学部 教授 西村 隆男 氏

受講者の感想 消費者教育の第一人者である西村教授の話聞く機会に感謝したい(40代男性)。噛み砕いて説明いただきありがたかった。聞いたことのない言葉も出てきて、新しい発見もあり、来た甲斐があった(40代女性)。消費者市民の権利と義務を自覚させる内容であり、市民レベルでわかりやすい講義であった。学んだことを自分だけでなく広く伝えて行くことの意義を教えられた(60代男性)。消費生活の問題は、他人事ではないという意識を持つことが大切であるということ学んだ(60代男性)。

【事例研究】「賢い消費者になるための処方箋」～安心・安全な地域づくりをめざして～

〈事例発表1〉「なくす会の活動内容について」

適格消費者団体 NPO法人埼玉消費者被害をなくす会 専務理事 岩岡 宏保 氏

〈事例発表2〉「富岡市くらしの会の取組について」

富岡市消費生活センター 所長 高井小枝子 氏

【寸劇の実演（テーマ：消費者被害）】：富岡市くらしの会「お富ちゃん劇団」

受講者の感想 適格消費者団体の活動内容がとてもよく理解できた(40代女性)。群馬県にも適格消費者団体ができるのではないかと思った(50代女性)。とてもよいことをレクチャーしていただいたが、振り込め詐欺などはこれほど警鐘を鳴らしているのにどうして被害にあってしまうのか分からない(70代女性)。お富ちゃん劇団の役者さんたちの演技が群馬の県民性を捉えていて観客は引き込まれた。素晴らしかった(30代女性)。



西村隆男氏



岩岡宏保氏



高井小枝子氏



寸劇の様子

教育支援活動コーディネーター等研修会 ～学校・地域を舞台に子どもが育つ教育支援活動を考える～

10月31日(木) 受講者92名

趣旨 放課後子ども教室や学校支援地域本部事業（学校支援センター）等、学校や子どもたちの教育活動に関わるボランティア活動を調整するコーディネーター等の養成や資質の向上を図る。

【講義・事例発表①】「地域を舞台に教育支援活動を考える」

杉並区学校支援本部・本部長チーフコーディネーター 伴野 博美 氏

【事例発表②】「活動事例から学ぶコーディネーターの役割」

館林市放課後子ども教室「北小学舎」 事務局長 金子 春江 氏

【講義・演習】「気になる子どもの理解と接し方」

埼玉大学教育学部 教授 坂西 友秀 氏

【班別協議】「良好な人間関係を目指して」(グループワーク)

受講者の感想 学校支援コーディネーターとして、放課後の子どもの居場所づくりへの方向の中に足を踏み入れ、地域を十分に活用して、子どもたちの育ちに関わっていききたい(50代女性)。コーディネーターの方がたいへん積極的に活動している様子を知ることができ、自分も刺激を受けた(60代女性)。教育支援活動を行うための資質・能力の向上につながった(40代男性)。班別協議は少し緊張するところもあったが、大変有意義な時間を過ごすことができた。学校への批判的な意見に目が向きがちだが、応援しようとする思いを知り、励まされた。また、学校が閉鎖的に思われていることに驚いた(40代女性：教員)。



伴野博美氏



金子春江氏



坂西友秀氏



グループワークの様子

平成26年度「課題解決支援」に関する事業体系の概要

普及・啓発

- 「まなびねっとぐんま」を活用した情報提供
(群馬県生涯学習情報提供システム)
- 普及資料の発行

：課題解決支援事業

：主な関連事業

学習支援

課題解決支援講座Ⅰ

(ESD[持続可能な開発のための教育]入門編)

趣旨：地球規模の課題に対して自らの問題として捉え、身近なところから取り組み、持続可能な社会づくりの担い手となるために必要な基礎的知識や方策について学ぶ。

期日：6月28日(土)・7月5日(土)

対象：県民一般

定員：50人

課題解決支援講座Ⅱ

(ESD[持続可能な開発のための教育]実践編)

趣旨：一人ひとりが自然環境や資源の有限性、地域の将来性など、様々な分野とのつながりを認識し、持続可能な社会の実現に向けて行動する人材を育成するための具体的な取組や方策について学ぶ。

期日：10月9日(木)・10月16日(木)

対象：県民一般

定員：50人

市町村職員のための社会教育実践研修(新規)

趣旨：国の動向や県・市町村の社会教育行政の現状を踏まえ、地域課題の解決や地域の特色を生かした事業展開をするために、市町村社会教育関係職員の資質・能力の向上を図る研修を実施する。

また、実践的な研修により市町村の社会教育関係者の人材育成を図るとともに、生涯学習センターと市町村の連携を強化する。

期日：平成26年6月～平成27年1月(全5回)

対象：概ね経過年数3年未満の市町村の社会教育関係職員

定員：10名程度

募集期間：平成26年4月1日(火)～5月30日(金)

子育て支援応援フォーラム

趣旨：子育て支援に関する最新の動向、実践事例、グループ運営方法や協働の在り方等について研修を行い、関係者の資質・能力の向上を図る。

期日：11月7日(金)

対象：子育て中の保護者、行政担当者、NPO・ボランティア団体関係者、子育て支援活動に関心のある方

定員：50人

教育支援活動コーディネーター等研修会

趣旨：学校支援センターや放課後子ども教室のボランティア活動を調整するコーディネーター等の養成や資質向上を図るための知識・技術について学ぶ。

期日：11月19日(木)

対象：教育支援活動において、コーディネーター及びボランティアリーダーとして活動中の方、または活動を希望する方

定員：50人

学習成果の活用支援

- 地域の教育力向上(学校支援ボランティア養成や地域づくり活動の支援等)
- 家庭の教育力向上(子育て支援ボランティア養成・スキルアップ研修の推進)
- 学習支援者の情報発信機能充実(「まなびねっとぐんま」の「講師・人材情報」「団体情報」への登録や活動紹介等の推進)
- 地域活動を行う各種団体やNPO等の紹介

※ESD(Education for Sustainable Development:持続可能な開発のための教育)とは？

今、世界には環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な問題があります。ESDとは、これらの現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組む(think globally, act locally)ことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。つまり、ESDは持続可能な社会づくりの担い手を育む教育です。(文部科学省ホームページより抜粋)

[表紙写真]

- ①「高齢者のキャリアを活かした職場づくり」シゴトラボ合同会社(BABAラボ)：さいたま市
- ②「大人の溜まり場・フォーク喫茶」NPO法人よろずや余之助：太田市
- ③「地域住民による消費者被害をテーマにした寸劇の様子」：富岡市くらしの会『お富ちゃん劇団』

上記は、平成25年度課題解決支援講座で事例発表していただいた団体の提供によるものです。詳細は群馬県生涯学習センターホームページをご覧ください。